

●ポスターセッション (P-水環境・海域-P-C01～P-C05)

本セッションでは、我が国の水環境と海域に関する研究発表が行われた。ここでは、各発表のエッセンスを報告する。

P-C01 は、感潮域での底泥の堆積過程への藻類の影響についての研究である。現地にてクロロフィル測定および採水を行うなどの調査を行ない、上げ潮時には chl-a の沈降速度が速くなりフロックを形成して SS の沈降速度が速くなることを指摘している。

P-C02 は、瀬戸内海沿岸 24 地点および沿岸に生息するムラサキイガイ可食部に含まれる重金属および多環芳香族炭化水素についての調査したものである。それぞれのムラサキイガイへの蓄積には周辺環境のみでなく体内での代謝も大きく影響していることを明らかにしている。

P-C03 は、浚渫土を用いて造成した人工干潟にて底質およびマクロベントスについて行ったモニタリング結果である。人工干潟の多様度指数が低いこと、底質の安定化には 5 年程度かかること、潮干狩りによる干潟の攪拌を行うことによりマクロベントスの増加の効果があることを示している。

P-C04 は、有明海湾奥部について季節的な堆積物の変化についての研究である。有明海湾奥部にて出水期前後で各 100 ヶ所の底質サンプリングを行い、堆積物の季節的な変化についてマッピングしている。また、変化が見られた場所は出水による陸域由来の懸濁物が大きく影響していることを明らかにしている。

P-C05 は台風が植物プランクトンの組成にどう影響するのか検討したもので、出水による栄養塩の流入は大型珪藻の増加を引き起こし、一時的に群集構造に変化をもたらしたが、5 日程度でもともにもどることを明らかにしている。

本セッションで取り上げた懸濁物輸送、環境の人為的改変効果、微量化学物質の挙動、出水・台風などの非常時の環境については未解明な部分も多く、今後のさらなる成果がもたらされることが期待される。

(福岡大学社会デザイン工学科 伊豫岡 宏樹)